

## 社会福祉従事者の長期勤続を促す要因についての研究 ～勤続10年以上の精神保健福祉士へのインタビューから～

Research on the factors that encourage long service of social welfare workers  
～From interviews with psychiatric social worker for more than 10 years of service～

森田 諒 (Ryo Morita) 指導：岩崎 香

### 1. 研究背景と目的

近年、社会環境の変化による福祉サービスの需要の増大、多様化が進んでいる一方で、福祉職従事者の早期離職が目立っている。(財)社会福祉振興・試験センターの現状調査(平成20年度)によると、現に就労している職場における従事年数において、社会福祉士・精神保健福祉士は「1年以上3年未満」の割合が最も高い。

近年は特に精神保健福祉分野でのサービスが注目を集めている。我が国では、精神障害者に対する支援や取り組みが、他の先進諸国に比べて遅れをとってきた。しかし、1997年より精神保健福祉士(以下、PSWとする)が国家資格として認められ、精神障害者に対する福祉サービスは徐々に充実してきている。今後の精神保健福祉サービスの需要を考えると、PSWの勤続促進は必須であり、一方で、激務化する業務内容に早期離職問題はより一層深刻化することが予想される。そのためにも、PSWが長期勤続を目指すことのできる職場環境、人間関係、社会制度を予め整える必要があると考える。

従って本研究では、勤続年数10年以上のPSWにおいて、長期勤続に至った理由と要因を探ることを第一の目的とする。さらに、その要因を探ることにより、福祉職従事者における今後の早期離職やバーンアウト防止への取り組みを具体的に検討したい。

### 2. 研究方法

社会福祉施設・病院等で10年以上連続勤務した精神保健福祉士6名を対象にインタビュー調査を行った。各人に60分程度のインタビューを行ってICレコーダに記録し、逐語記録を作成した上で、修正版グランデットセオリーアプローチ(M-GTA)により分析した。

### 3. 結果・考察

「PSWが所属機関において長期勤続に至った要因」をテーマに、ベテランPSW 6名のインタビューをM-GTAを用いて分析したところ、生成された23概念は8カテゴリーに分類された。

ベテランPSWは、初めに受けた精神科病院への衝撃や昔の名残が残る看護師の態度から人権擁護の先駆けたる思いを体験し、＜現場に対する問題意識＞を抱くことになった。＜精神科への興味の自覚＞をしたのは、大学における精神科領域との出会いがきっかけとなり、その中で受けた周囲からの影響や刺激が精神科病院への就職動機に繋がった。

実際に現場で働く中で、ベテランPSWは＜現場実践の中での葛藤＞を多く経験することになった。他職種からの曖昧な理解、病院組織そのものへの問題意識、愛のない職場に対する不満などであり、近年では情熱のない精神科医に対する憤りを感じることも珍しくなくなった。しかし、そういった葛藤の中でも自身の専門性を見出し、PSWとして大きく活躍の場を広げようと精進し続けていた。

そのために軸となる＜PSWであることへの使命感＞は、クライアントとのかかわりの中で感じるやりがいや、専門職であるPSWのアイデンティティにより確立されていた。

近年ではPSWが国家資格化したことによる＜若手PSWとの価値観のギャップ＞を抱くことも多く、資格化により変化したPSW像、情熱のない若手PSWに対する思いが、ベテランPSWとしての使命感をより明確化させた。

しかし、長年精神科医療に関わる中で自身の限界を感じた時、＜本気で離職を考える＞ことになり、離職願望の行動化を図ることもあった。その中でPSWが専門職としての＜モチベーションを保つための必須事項＞になっているのは、自身の所属機関における上司・先輩PSWの存在の大きさと、所属機関外のネットワークによる外部のPSWから受ける刺激と救いであった。

ベテランPSWが現在まで働き続けることができたのは、＜まだやるべきことがある＞という、クライアントと精神科医療に対する強い使命感であった。日々の実践の中で遭遇する多くの葛藤の中でも、離職願望を踏みとどまらせたPSWとしての自分が、結果として長期勤続に至らせた。仕事としてのマニュアルもなく100%正しい答えもないからこそ、自身の専門性を追求し続け、PSWとしての可能性に挑戦できる職場環境にあることが、PSWの長期勤続を促進させる大きな要因となることが示唆された。